



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター Nara IDSC
 （奈良県保健環境研究センター内）



- 今週の概要
- 今週の感染症情報



（調査週）平成 24 年 第 43 週 10 月 22 日（月）～10 月 28 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

| 順位 | 疾患 | 定点当り | 奈良県 | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|------------|------|-----|-----|-----|----|
| 1 | 感染性胃腸炎 | 3.60 | ↑ | ↑↑ | →～↑ | ↑ |
| 2 | RS ウイルス感染症 | 0.80 | → | → | → | ↓ |
| 3 | A 群溶連菌咽頭炎 | 0.57 | →～↑ | ↑ | ↑ | ↓ |
| 4 | 水痘 | 0.46 | ↑ | ↑ | ↑↑ | ↓ |
| 5 | 突発性発しん | 0.43 | → | →～↑ | →～↓ | ↑ |

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は107例で、前週報告の62例から増加。上位 5 疾患は、①感染性胃腸炎、②RSウイルス感染症、③A群溶連菌咽頭炎、④手足口病、⑤突発性発しんの順。感染性胃腸炎の報告数（18→52例）は、激増。A群溶連菌咽頭炎の報告数（11例）は、やや増加。手足口病の報告数（8例）も、やや増加。突発性発しんの報告数（7例）も、やや増加。RSウイルス感染症の報告数（16例）は、減少。また、インフルエンザ定点からの報告は、郡山HC管内より1例あった。郡山HC管内眼科定点から、流行性角結膜炎の報告が1例あった。また、郡山HC管内基幹定点からは、無菌性髄膜炎とマイコプラズマ肺炎が各々1例ずつ（共に5～9歳児）報告された。

（村井 記）

県中部地区概況 報告数は、101 例から 102 例と横ばいである。上位 5 疾患は、感染性胃腸炎、RS ウイルス感染症、水痘、A 群溶連菌咽頭炎、突発性発疹の順であった。感染性胃腸炎は、58 例から 65 例と増加傾向であり、RS ウイルス感染症は、12 例から 12 例と横ばいである。基幹定点および眼科定点からの報告はなかった。

(高木 記)

県南部地区概況 報告数(第 42 週→第 43 週)は 10 例→15 例と増加。報告のあった疾患は、①感染性胃腸炎(9 例→9 例)、②突発性発疹(0 例→4 例)、③手足口病(0 例→1 例)、④流行性角結膜炎【眼科定点】(0 例→1 例)であった。

(柳生 記)

感染症情報センターホームページアドレス

http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-27874.htm

